

光あふれる因幡の森づくり事業
～森へとびこめ!!フォレストダイブ!! in 志子部～

事業を終えて

過疎化、高齢化が進む中山間地域において、担い手不足により森林の健全な機能が損なわれ、地域の宝である美しい自然を失いつつある状況で、因幡のグリーン政策のもと、私たちに何ができるか考え事業構築してまいりました。

2009年から因幡のグリーン政策委員会は、森林保全意識の向上、経済との結びつき、人と人の環の拡大に取り組み、2015年には森林保全学習により市民の保全意識向上を図り、保全意識の高い市民の環を広げることを狙いとしたフォレストダイブという事業を実施しました。本年度はこれまでの取り組みを継承しつつ、市民の保全意識向上を図り、その意識が高まった市民をいかに活発な森林保全活動に結び付けるか、そしてこの取り組みをいかに因幡地域に広めるかを考え事業を構築し事業実施に至りました。

当日は志子部地域の皆さま、間伐等の指導をお願いした八頭森林組合の皆さまの格別なるご協力のもと、参加者の期待を上回る森林保全体験、里山体験をして頂くことができました。手つかずの荒れた人工林を参加者が診断し、間伐と枝打ちをしたことで寒々しく薄暗かった森は見違えるほど明るくなりました。暖かな光が差し込む森に、未来を象徴する広葉樹の苗木を植樹した光景は、参加者のみならず地域の方や私たちにとっても感動を覚えるものでした。そのような体験があったからこそ参加者の森林保全意識が向上し、参加者と志子部地域との今後の繋がりをつくることができたものと考えます。

事業を通じて里山地域の現状を知ることで、その人口減少、高齢化の問題は非常に深刻なものであることを大きな危機感を持って肌で感じました。現在の因幡地域の豊かな自然とその恵みは里山地域に住む高齢者によって支えられています。このままでは近い将来、里山の集落は消滅していき、因幡地域の豊かな自然は損なわれ、地域の魅力と安全を失います。

私たちはこれまで以上に市民の森林保全意識向上を図り、里山地域とともに市民が行う森林保全活動を広めていかなければなりません。この活動が因幡地域全体で実を結ぶことで、明るい豊かな社会が実現できるものであると考えます。

最後に本事業に対してご協力頂きました志子部地域の皆さま、八頭中央森林組合の皆さま、鳥取JCメンバーの皆さまに深く御礼を申し上げますとともに、「日本一自然と共生するまち」の実現を祈念しまして事業の総括とさせていただきます。

公益社団法人 鳥取青年会議所
2016年度 因幡のグリーン政策委員会
委員長 森本 修平